



山西小学校便り



校長室の窓枠の下に、セミの抜け殻を見つけました。梅雨明けが待たれます。

令和3年7月13日(火) no.17 文責：上田

## ネットと賢くつきあう？

この数日、ネット依存にまつわるネットサイトを多数見ました。その中で、ネット依存に警鐘を鳴らさなくてはならない現実があることは確かだと感じました。そして、もう一つ感じたことは、子どもがネット依存にならない環境を作ることの大切さです。

以前、校長研修の折、「友達がたくさんいる」ことが最も大切だと、小・中・高校生の多くが考えていること、4割を超える子が仲間外れにされないように周りに話を合わせていることが紹介されたことがあります。子ども達は、友達とのつながりを求めており、友達との関係に対する不安を持っているということのようです。人とのつながりのためにネットや LINE などのコミュニケーションツールを必要としており、それらに依存してしまう背景も見えてきます。10 数年前、子ども達が小さかった頃、『鬼から・・・』と称するアプリが話題となったことがありますが、覚えておられますか。現在、親同士もネットやスマホを介したつながりが密になっています。そのような環境では、子どもだけでなく誰もがネット依存が強まる傾向は否定できません。子どもが依存するリスクが高い日常環境があります。

では、子育てにおいて子どもがネットと上手につきあうために、どんなことに注意したらよいのかですが、まず、親が子どものネット利用の実態を把握することが大切です。親から尋ねられなければネットを利用していることを子どもは自分からは話さないかと思います。親が四六時中、子どもを見守ることは不可能なので、子どもに自覚を促すことが最も大切になります。家庭でルールをつくることも子どもの自覚を促すための手立てだと考えてください。もちろん、軽度のネット依存であれば、家族と過ごす時間を増やすこと、就寝前にネット機器を遠ざけることも効果があるかと思います。もちろん、依存が強ければ強いほど、子どもの反発は必至です。親子あるいは兄弟姉妹も巻き込んで家族の問題として解決の糸口を探さなくてはなりません。前回も述べましたが「なぜそこまでゲームが必要なのか」「どうしてネット上のつながりにこだわっているのか」を問うことが大切です。

さて、「即レス」「亀(遅)レス」という言葉を聞かれたことがありますか。メールには即レス(即座にレスポンス:反応・返答)しなくてはならないと考える人も多いようです。先日、私が家族 LINE で「既読スルー」したら、子どもから注意を受けました。「即レス」が当たり前と言われると、そこまで緊張感が必要なのかと考えてしまいました。友人グループで「亀レス」「既読スルー」するのはご法度なのでしょう。そんなに緊張感を要するような状況で子ども達はネットで会話しているのです。こんな話を親子でできる関係があればネットいじめの解決を私たち教師も大人も、子どもと一緒に考えて考えることもできるのではないのでしょうか。なにせ、子どもの方がネット文化?には長けているのもまた事実だからです。以前、E テレで、高校生がネットで友達とトラブルたらネット上で解決することはせず、面と向かって相手と会話することが最良の策だと話していました。至極納得しました。

ネットは罪悪? ネットは素晴らしい? いずれにしても、ネットと賢くつき合うことがこれからの時代は今以上に求められそうです。ネット依存になることなくネットと「賢く」つき合うためにできることを考えなくてはなりません。